

## 平成 29(2017) 年度 解析学 C 期末試験問題

実施: 2017. 7.18 (火) 08:50–10:20

- 1–6 番は必答. 7 番は 7A または 7B の一つだけ, 8 番は 8A または 8B の一つだけを選択して解答せよ.
- 丁寧な文章で論拠を明示することで加点される.
- 式の羅列のみの解答, 読めない (薄い、小さい、汚い) 解答は 0 点.

1. 次の微分方程式の解をすべて求めて, 得られる曲線群を  $xy$ -平面に図示せよ. [15 点]

$$\frac{dy}{dx} = 2xy^2$$

2. 次の微分方程式の解をすべて求めて, 得られる曲線群を  $xy$ -平面に図示せよ. [15 点]

$$(1 - y)dx + (1 + x)dy = 0$$

3. 次の微分方程式の解をすべて求めて, 得られる曲線群を  $xy$ -平面に図示せよ. [15 点]

$$\frac{dy}{dx} = \frac{x + y}{x - y}$$

4. 次の微分方程式の解をすべて求めて, 得られる曲線群を  $xy$ -平面に図示せよ. [15 点]

$$y = y'x + \frac{1}{y'}$$

5.  $y = y(x)$  に関する次の定係数線形微分方程式の一般解を求めよ. [10 点]

$$y'' - y' - 2y = -4x + 5 \sin x$$

6.  $y = y(x)$ ,  $z = z(x)$  に関する次の連立微分方程式を行列を用いて解け. [10 点]

$$\begin{cases} y' = 5y - 2z \\ z' = 2y + z \end{cases}$$

7A [選択]. 微分方程式  $\frac{dy}{dx} + y \cos x = \sin x \cos x$  の一般解を求めよ. [10 点]

7B [選択]. 微分方程式  $(x^2y - y^2)dx - x^3dy = 0$  の両辺に  $x^\alpha y^\beta$  をかけて完全微分方程式に変換して解け. [10 点]

8A [選択]. ばね定数  $\lambda > 0$  のばねにつながれた質量  $m$  の質点が速度に比例する抵抗を受けて運動する. 時刻  $x$  におけるその質点の位置  $y = y(x)$  は運動方程式

$$my'' = -\lambda y - \gamma y'$$

に従う. ただし,  $\gamma = \sqrt{4m\lambda}$  とする. 初期条件を  $y(0) = 1$ ,  $y'(0) = v$  とするとき,  $y(x) = 0$  となる  $x > 0$  が存在するための  $\lambda, m, v$  の条件を求めよ. [10 点]

8B [選択]. べき級数  $y = \sum_{n=0}^{\infty} c_n x^n$  が微分方程式  $y' = 1 + xy$  および初期条件  $y(0) = 1$  を満たすように, 係数列  $c_0, c_1, \dots, c_n, \dots$  を定めよ. [10 点]

## 平成 29(2017) 年度 解析学 C 期末試験解説

1. [p. 9] まず,  $y(x) \equiv 0$  は解である. それ以外の解を求めるために,  $\frac{dy}{y^2} = 2x dx$  と変形して両辺を積分すると,

$$\int \frac{dy}{y^2} = \int 2x dx$$

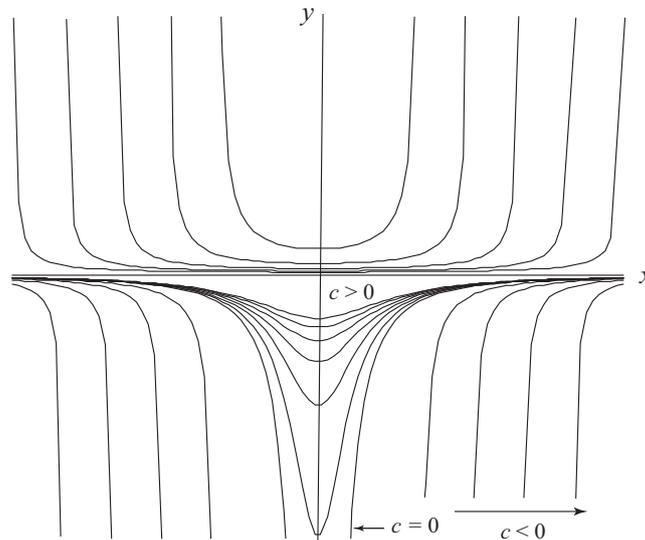
したがって,

$$-\frac{1}{y} = x^2 + C$$

よって, 求める解は,

$$y = 0, \quad y = -\frac{1}{x^2 + C}$$

グラフの形状は  $C > 0$ ,  $C = 0$ ,  $C < 0$  で異なるので注意せよ. 得られる曲線群は全平面を埋めつくす.



2. [p.12] まず,  $y(x) \equiv 1$  は解である. 次に  $\frac{dy}{y-1} = \frac{dx}{x+1}$  と変形して, 両辺を積分して,

$$\log|y-1| = \log|1+x| + C_1$$

したがって,

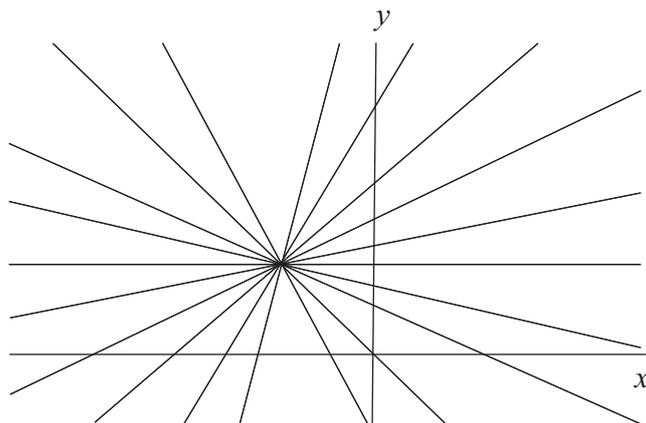
$$y = C(x+1) + 1$$

$C = 0$  とおけば,  $y = 1$  であるから, 求める解は

$$y = C(x+1) + 1$$

で尽きる. 得られる曲線群は  $(-1, 1)$  を通る直線群である.

元々の微分方程式は  $x, y$  について, どちらが独立変数で, どちらが従属変数ということはなく, 対称的に書かれているので,  $x = -1$  を解曲線に加えてもよい.



3. [p.17] 同次形である. ここで,  $u = \frac{y}{x}$  とおいて,

$$y = xu, \quad \frac{dy}{dx} = u + x \frac{du}{dx}$$

を代入して, 微分方程式に書き直すと

$$u + x \frac{du}{dx} = \frac{1+u}{1-u} \Leftrightarrow \frac{1-u}{1+u^2} du = \frac{dx}{x}$$

となる. 積分して

$$\begin{aligned} \arctan u - \frac{1}{2} \log(1+u^2) &= \log|x| + C_1 \\ \Leftrightarrow 2 \arctan u - \log(1+u^2) &= 2 \log|x| + C_2 \\ \Leftrightarrow 2 \arctan u &= \log(1+u^2)x^2 + C_2 = \log C_3(1+u^2)x^2 \\ \Leftrightarrow e^{2 \arctan u} &= C_3(1+u^2)x^2 = C_3(x^2 + y^2) \\ \Leftrightarrow x^2 + y^2 &= C e^{2 \arctan \frac{y}{x}} \end{aligned}$$

これ以上は見やすくないので, 解は,

$$x^2 + y^2 = C e^{2 \arctan \frac{y}{x}}$$

でよい.

曲線群を見るときは, 極座標が便利である.

$$x = r \cos \theta, \quad y = r \sin \theta$$

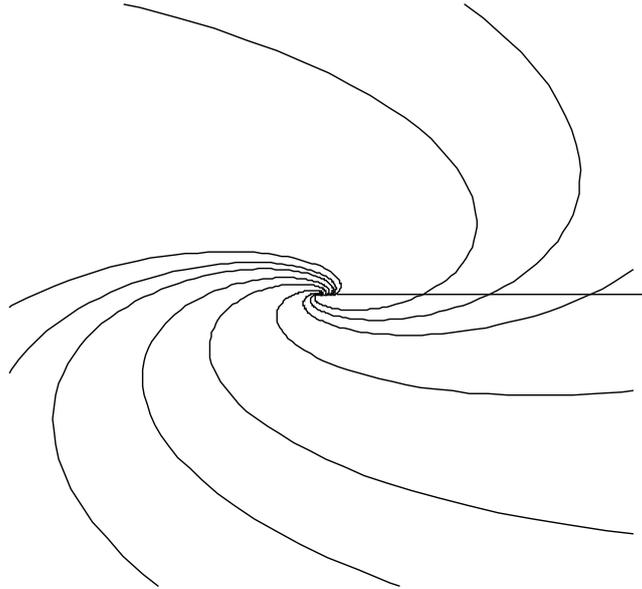
とおくと,

$$r^2 = C e^{2\theta}$$

となるから, 定数を取り直して,

$$r = C e^\theta \quad C \geq 0 \text{ は任意定数}$$

となる.



4. [p.46]  $p = y'$  とおくと

$$y = px + \frac{1}{p}$$

両辺を微分して,

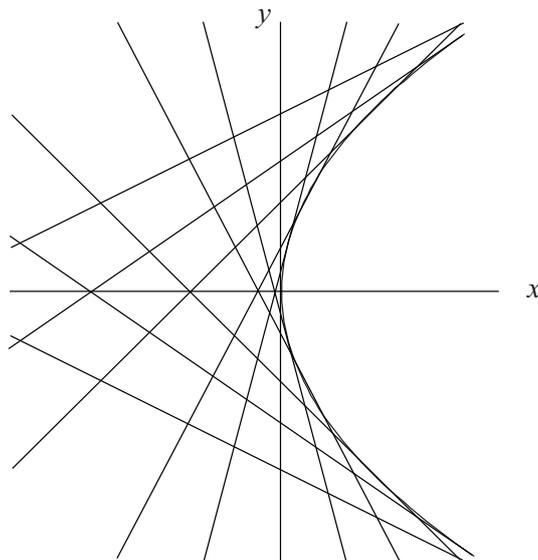
$$y' = p'x + p - \frac{p'}{p^2}$$

$p = y'$  と合わせて,

$$p' \left( x - \frac{1}{p^2} \right) = 0.$$

これから,  $p = C$  と  $p^2 = \frac{1}{x}$  が出る. 元に戻して,

$$y = Cx + \frac{1}{C}, \quad y^2 = 4x.$$



5. [p.73] まず,

$$y'' - y' - 2y = 0 \quad (*)$$

を解く. 特性方程式は  $\xi^2 - \xi - 2 = (\xi - 2)(\xi + 1) = 0$  であるから, 特性根は  $\xi = 2, -1$ . したがって, 基本解は  $\{e^{2x}, e^{-x}\}$  であり, (\*) の一般解は

$$y = C_1 e^{2x} + C_2 e^{-x}$$

で与えられる. そうすると,  $y'' - y' - 2y = -4x + 5 \sin x$  の一般解は, 特殊解の1つ  $y_*$  を用いて  $y + y_*$  として求められる.

計算の要領として, まず,  $y'' - y' - 2y = 5 \sin x$  の特殊解を求めよう. 解を  $y = a \cos x + b \sin x$  の形を想定する. 方程式に代入すると,

$$(-3a - b) \cos x + (a - 3b) \sin x = 5 \sin x$$

となる. よって,  $a = \frac{1}{2}, b = -\frac{3}{2}$  が出て, 特殊解として,

$$y_1 = \frac{1}{2} \cos x - \frac{3}{2} \sin x$$

が得られる. 次に,  $y'' - y' - 2y = -4x$  の特殊解を求めるために解を  $y = ax + b$  の形を想定する. 代入して,

$$-a - 2ax - 2b = -4x$$

から,  $a = 2, b = -1$ . よって, 特殊解

$$y_2 = 2x - 1$$

を得る. 以上から, 一般解は,

$$y = C_1 e^{2x} + C_2 e^{-x} + \frac{1}{2} \cos x - \frac{3}{2} \sin x + 2x - 1$$

6. [p. 115]

$$\frac{d}{dx} \begin{bmatrix} y \\ z \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 5 & -2 \\ 2 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} y \\ z \end{bmatrix}$$

と書ける. さて,

$$\begin{vmatrix} \lambda - 5 & 2 \\ -2 & \lambda - 1 \end{vmatrix} = (\lambda - 5)(\lambda - 1) + 4 = \lambda^2 - 6\lambda + 9 = (\lambda - 3)^2$$

であるから, 固有値は 3 のみ. 固有ベクトルは

$$\begin{bmatrix} 5 & -2 \\ 2 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \xi \\ \eta \end{bmatrix} = 3 \begin{bmatrix} \xi \\ \eta \end{bmatrix}$$

を解いて,  $\begin{bmatrix} \xi \\ \eta \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}$  がわかる. 固有空間が 1 次元であるから対角化はできない. したがって,  $y, z$  ともに  $e^{3x}, xe^{3x}$  の線形結合になる. そこで,

$$y = C_1 e^{3x} + C_2 x e^{3x}, \quad z = C_3 e^{3x} + C_4 x e^{3x},$$

とにおいて, 任意定数を 2 個に減らせばよい. 与えられた方程式  $y' = 5y - 2z$  に代入して, 各辺を整理すると,

$$(3C_1 + C_2)e^{3x} + 3C_2 x e^{3x} = (5C_1 - 2C_3)e^{3x} + (5C_2 - 2C_4)x e^{3x}$$

係数を比較すると,

$$C_3 = C_1 - \frac{1}{2} C_2, \quad C_4 = C_2.$$

連立方程式の第2式についても同様に扱くと, 全く同じ式が出る. したがって, 求める一般解は,

$$y = C_1 e^{3x} + C_2 x e^{3x}, \quad z = (C_1 - \frac{1}{2} C_2) e^{3x} + C_2 x e^{3x}.$$

[参考] 係数行列は対角化できないので, ジョルダン標準形を用いる必要がある.

$$\begin{bmatrix} 5 & -2 \\ 2 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 & a \\ 1 & b \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & a \\ 1 & b \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 3 & 1 \\ 0 & 3 \end{bmatrix}$$

とにおいて,  $a, b$  を求めると,  $a = \frac{1}{2}, b = 0$ . こうして,

$$\begin{bmatrix} 1 & 1/2 \\ 1 & 0 \end{bmatrix}^{-1} \begin{bmatrix} 5 & -2 \\ 2 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 & 1/2 \\ 1 & 0 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 3 & 1 \\ 0 & 3 \end{bmatrix}$$

が得られる. 解くべき方程式は,

$$\frac{d}{dx} \begin{bmatrix} 1 & 1/2 \\ 1 & 0 \end{bmatrix}^{-1} \begin{bmatrix} y \\ z \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & 1/2 \\ 1 & 0 \end{bmatrix}^{-1} \begin{bmatrix} 5 & -2 \\ 2 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} y \\ z \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 3 & 1 \\ 0 & 3 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 & 1/2 \\ 1 & 0 \end{bmatrix}^{-1} \begin{bmatrix} y \\ z \end{bmatrix}$$

ところで,

$$\frac{d}{dx} \begin{bmatrix} y_1 \\ z_2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 3 & 1 \\ 0 & 3 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} y_1 \\ z_2 \end{bmatrix}$$

の一般解は,

$$\begin{bmatrix} y_1 \\ z_2 \end{bmatrix} = \exp x \begin{bmatrix} 3 & 1 \\ 0 & 3 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} C_1 \\ C_2 \end{bmatrix} = \exp x \begin{bmatrix} 3 & 1 \\ 0 & 3 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} C_1 \\ C_2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} e^{3x} & x e^{3x} \\ 0 & e^{3x} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} C_1 \\ C_2 \end{bmatrix}$$

したがって,

$$\begin{bmatrix} y \\ z \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & 1/2 \\ 1 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} e^{3x} & x e^{3x} \\ 0 & e^{3x} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} C_1 \\ C_2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} C_1 e^{3x} + \frac{1}{2} C_2 x e^{3x} + C_2 e^{3x} \\ C_1 e^{3x} + C_2 x e^{3x} \end{bmatrix}$$

**7A.** [p.22] まず,

$$\frac{dy}{dx} + y \cos x = 0$$

を解く. これは変数分離型であり,

$$\frac{dy}{y} = -\cos x \, dx$$

と変形して積分すれば,

$$\log |y| = -\sin x + C_1$$

となり,

$$y = C e^{-\sin x}$$

が一般解となる. さて,  $\frac{dy}{dx} + y \cos x = \sin x \cos x$  を解くために, 解を

$$y = u e^{-\sin x}$$

と想定して、方程式に代入すると、

$$u'e^{-\sin x} - u(\cos x)e^{-\sin x} + ue^{-\sin x} \cos x = \sin x \cos x.$$

よって、

$$u' = \sin x \cos x e^{\sin x}.$$

両辺を積分して、

$$u = \int \sin x \cos x e^{\sin x} dx = (\sin x - 1)e^{\sin x} + C.$$

よって、求める解は

$$y = \{(\sin x - 1)e^{\sin x} + C\}e^{-\sin x} = \sin x - 1 + Ce^{-\sin x}.$$

**7B.** [p.36] 微分方程式  $(x^2y - y^2)dx - x^3dy = 0$  の両辺に  $x^\alpha y^\beta$  をかけて完全微分方程式に変換して解け。

$$\begin{aligned} F &= x^\alpha y^\beta (x^2y - y^2) = x^{\alpha+2}y^{\beta+1} - x^\alpha y^{\beta+2}, \\ G &= x^\alpha y^\beta (-x^3) = -x^{\alpha+3}y^\beta \end{aligned}$$

とにおいて、

$$\frac{\partial F}{\partial y} = \frac{\partial G}{\partial x}$$

が成り立つように  $\alpha, \beta$  を定めればよい。

$$(\beta + 1)x^{\alpha+2}y^\beta - (\beta + 2)x^\alpha y^{\beta+1} = -(\alpha + 3)x^{\alpha+2}y^\beta$$

なので、

$$\beta + 1 = -(\alpha + 3), \quad \beta + 2 = 0.$$

よって、 $\alpha = \beta = -2$ . したがって、

$$(y^{-1} - x^{-2})dx - xy^{-2}dy = 0$$

は完全微分方程式. 実際、左辺は  $d(xy^{-1} + x^{-1})$  に一致する. よって、一般解は  $xy^{-1} + x^{-1} = C$  たうまり、

$$x^2 + y = Cxy$$

および  $y = 0$  である.

**8A.** 特性方程式は

$$m\xi^2 + \gamma\xi + \lambda\xi = 0$$

であり、特性根は

$$\xi = \frac{-\gamma \pm \sqrt{\gamma^2 - 4m\lambda}}{2m}$$

である. 条件  $\gamma = \sqrt{4m\lambda}$  から特性根は重根であって、

$$\xi = -\frac{\gamma}{2m} = -\frac{\sqrt{4m\lambda}}{2m} = -\sqrt{\frac{\lambda}{m}}$$

がわかる. よって、基本解は  $\{e^{\xi x}, xe^{\xi x}\}$ , 一般解は

$$y = (C_1 + C_2x)e^{\xi x}$$

で与えられる.

$$y' = (C_2 + (C_1 + C_2x)\xi)e^{\xi x}$$

に注意する. 初期条件は,

$$y(0) = C_1 = 1, \quad y'(0) = C_2 + C_1\xi = v$$

となる. よって,

$$C_1 = 1, \quad C_2 = v - \xi$$

となり, 運動は

$$y = (1 + (v - \xi)x)e^{\xi x}$$

で与えられることがわかる.  $y = 0$  となるのは,

$$x = -\frac{1}{v - \xi}$$

であり, これが  $x > 0$  を満たせばよいから,

$$-\frac{1}{v - \xi} > 0 \iff v - \xi < 0 \iff v < \xi$$

したがって, 求める条件は,

$$v < -\sqrt{\frac{\lambda}{m}}$$

**8B.**  $y = \sum c_n x^n$  を微分方程式  $y' = 1 + xy$  および初期条件  $y(0) = 1$  に直接代入する. まず,

$$y' = \sum_{n=1}^{\infty} c_n n x^{n-1} = \sum_{n=0}^{\infty} c_{n+1} (n+1) x^n$$

に注意して,

$$y' = 1 + xy \iff \sum_{n=0}^{\infty} c_{n+1} (n+1) x^n = 1 + \sum_{n=0}^{\infty} c_n x^{n+1} = 1 + \sum_{n=1}^{\infty} c_{n-1} x^n$$

係数を比較して,

$$c_1 = 1, \quad c_{n+1} = \frac{c_{n-1}}{n+1}, \quad n \geq 1.$$

また,

$$y(0) = 1 \iff c_0 = 1$$

したがって,

$$c_0 = 1, \quad c_1 = 1, \quad c_n = \frac{c_{n-2}}{n}, \quad n \geq 2.$$

そうすると,  $n = 2k$  (偶数) のときは,

$$c_{2k} = \frac{c_{2k-2}}{2k} = \frac{c_{2k-4}}{2k(2k-2)} = \cdots = \frac{c_0}{2k(2k-2)\cdots 2} = \frac{1}{(2k)!!}$$

$n = 2k - 1$  (奇数) のときは,

$$c_{2k-1} = \frac{c_{2k-3}}{2k-1} = \frac{c_{2k-5}}{(2k-1)(2k-3)} = \cdots = \frac{c_1}{(2k-1)(2k-3)\cdots 3} = \frac{1}{(2k-1)!!}$$

いずれにせよ,

$$c_0 = 1, \quad c_1 = 1, \quad c_n = \frac{1}{n!!} \quad n \geq 2.$$